

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

北海道

学校名

安平町立早来学園

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等第9学年
総合的な学習の時間

時数等

22

目標・人権教育のねらい

- ・子どもの権利条約を理解し、権利を大切にできる態度を育む。
- ・互いの意見表明権を大切にできる学校や社会をどのようにつくるのかを考えようとする意識を高める。

実施した内容

- ・教育委員会と連携し、子どもの権利条約やCFCI(子どもにやさしいまちづくり事業)について学び、町の課題を考えた。(4時間)
- ・すべての人の意見表明権を大切にするためには何が大切かを考え、自分たちにできるプロジェクト活動を考えた。(10時間)
- ・ファシリテーションを探究し、地域の大人や教職員にワークショップを開催した。(8時間)

工夫した点

- ・教育委員会のCFCI担当職員と連携し、子どもの権利やCFCIについて学ぶことができた。
- ・子どもの権利の中でも意見表明権に着目し、啓発活動ではなく「意見表明権が大切にされる場づくり」というテーマでファシリテーションを探究し、その実践を教職員や地域住民にも共有する取組を行った。

他教科との
関連

- ・社会科で基本的人権に係る内容について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：「子どもの権利があるということを知っている」と回答した生徒の割合が100%(+75ポイント)になった。
- ・価値・態度的側面：「子どもの権利を大切にするためには何が必要か考えたことがある」と回答した生徒の割合が100%(+100ポイント)になった。
- ・技能的側面：「相手と対立したとき、互いの立場を尊重しながら解決に向けた対話ができる」と回答した生徒の割合が100%(+75ポイント)になった。

令和6年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

北海道

学校名

安平町立早来学園

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等第9学年
総合的な学習の時間

時数等

22

目標・人権教育のねらい

- ・地域の高齢者との交流を通して、共に生きていくために必要なことや、自分たちに何ができるかについて考えようとする意識を高める。
- ・住みやすいまちやコミュニティについての考えを共有できる。

実施した内容

- ・学校コンシェルジュと連携し、まちのコミュニティデザインや課題について学んだ。(4時間)
- ・学校という場所を使って、どのような取組をして地域コミュニティの形成に寄与できるかを考えた。(10時間)
- ・高齢者をターゲットにした交流イベントを学校の施設を使って開催した。(8時間)

工夫した点

- ・公民館機能のある学校として地域に開放されている早来学園の仕組みを活用してできることを考えた。
- ・高齢者の課題やニーズを把握するため、実際に地域の高齢者にヒアリング活動を行った。
- ・社会福祉協議会と連携してイベントの集客を行った。

他教科との
関連

- ・技術・家庭科で高齢者の関わり方について学習した。
- ・総合的な学習の時間で「認知症サポーター養成講座」を受講した。

事業成果

- ・知識的側面：「地域に住んでいる高齢者の抱えている課題について知っている」と回答した生徒の割合が**100%(+40ポイント)**になった。
- ・価値・態度的側面：「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」と回答した生徒の割合が**90%(+70ポイント)**になった。
- ・技能的側面：「地域や社会をよくするための行動を協力しながら実行できる」と回答した生徒の割合が**90%(+40ポイント)**になった。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

北海道

学校名

安平町立早来学園

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等第 4 学年
総合的な学習の時間

時数等

1 2

目標・人権教育のねらい

- ・ウポポイ(民族共生象徴空間)や国立アイヌ民族博物館の見学を通して、アイヌの人々や文化に対する興味・関心をもち、多様な文化が共生する社会について自分なりに考えられるようにする。

実施した内容

- ・アイヌ文化の基礎知識について学び、見学学習で注目する調査テーマを設定した。(2時間)
- ・国立アイヌ民族博物館では調査テーマに基づき探究し、ウポポイでは伝統芸能の鑑賞をした。(6時間)
- ・アイヌ文化についてグループで協働し、ICTを用いてレポートを作成した。(4時間)

工夫した点

- ・学校魅力化コーディネーターと連携し、児童の興味・関心を高めるカリキュラム全体の工夫を協働で考案した。
- ・国立アイヌ民族博物館では一人一人が調査テーマを設定し、それに基づいたクイズシートを利用して鑑賞することで、焦点を絞って短時間でも展示を見学できるよう工夫した。

他教科との
関連

- ・社会科でアイヌ語に係る内容について学習した。

事業成果

- ・知識的側面：「アイヌの人々が大切にしてきた生活や考え方を知っている」と回答した児童の割合が**91.6%(+54.6ポイント)**になった。
- ・価値・態度的側面：「アイヌの人々が大切にしてきた生活や考え方に興味がある」と回答した児童の割合が**91.6%(+13.9ポイント)**になった。
- ・技能的側面：「自分とはちがった考え方でも理解しようとする努力ができる」と回答した児童の割合が**100.0%(+11.2ポイント)**になった。